

## 国土の約7割が森林(2,512万ヘクタール)



# 森の学習(水源のかん養)①

### 『森のはたらき』

日本の森林は、国土面積三、七七九万ヘクタール(の六十六パーセント)を占め、この豊かな森林資源を背景に発展してきました。私たちの生活にとって昔から結びつきの深い森林。その森林には次のような働きがあります。

- 水源のかん養 国土保全 農水産資源を守り育てています。
- 生態系や環境を守り 人と自然とのふれあいの場となっています。
- 木材を供給し、さらに、森林は二酸化炭素を吸収して地球温暖化防止に貢献しています。

### 【水源のかん養 貯水機能は樹木ではなく森林土壌】

森林には、雨水をためる貯水機能があります。地表に積もった落ち葉や枯れ枝は、土壌生物や菌類の働きで分解されスポンジ状になっています。その土壌はふかふかしたもので、隙間に雨水を蓄え、徐々に地下に浸透し、川や海に流れ出る間に栄養豊かできれいな水になっています。

# 森への誘い

発行所

留萌振興局森林室  
〒077-8585  
留萌市住之江町2丁目  
1番地の2  
〔留萌合同庁舎内〕  
電話(0164)42-8380(代)  
FAX (0164) 42-2754  
<http://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp>

## 「るるもっぺ憩いの森(留萌市)に設定」

# 「みらいの森」の紹介

近年、個人や団体、企業等から道有林に対し、ボランティアによる森づくりに関する活動場所の提供や技術指導、道具の貸し出しなどの要望が数多く寄せられています。道有林では、当該活動の実施により、参加ボランティアの自主性に基づく森づくりを推進し、これを通じ森林、林業に対する地域住民の理解を促すとともに、多様な高度化する道民ニーズに対応します。

平成十九年度に設定したこの森では、早速、留萌市内の森林ボランティア団体が道と協定し、林内清掃やナメコの植菌、シイタケホダ木の管理など、年間を通して森づくり活動を計画しています。

活動に興味のある方は、気軽に留萌森づくりセンター お問い合わせください。  
〔担当 管理課 0146-42838〕



〔入り口にある看板〕



〔るるもい森林サポーター'Sクラブが実施したナメコ植菌の様子〕

# 夏山登山やタケノコ採りの季節

雪解けとともに、野山の緑がまぶしい季節になりました。登山、タケノコ採りや溪流釣りなど、森に入る機会が多くなるとともにクマとの遭遇や遭難などの事故がおきやすい時期でもあります。

○次の事項に留意して入林してください。

- ・ 家族や知人に、行き先と帰宅時間を伝えて出かける
- ・ 森林所有者の許可を得て入林する
- ・ 林道は、急勾配、急カーブが多いのでスピードを控え、安全運転を心がけて走行する
- ・ 防寒具のほか、水や非常食を携帯する
- ・ クマ出没情報など、地元の役場や猟友会などに確認してから出かける。また、目立つ服装、鈴やラジオなどで人の存在を知らせる
- ・ ゴミは必ず持ち帰り、タケノコの扱いに注意し、林内でのたき火は行わない。

※道有林に入林する際には、森づくりセンターに届け出るが、林道入り口に入林届け出箱がある場合には、必要事項を記載して入林してください。

〔暑寒別岳：増毛町側から〕



# 「げんきの森」で森林学習

● 天塩町立更岸小学校

平成二十年五月二十八日(水)

昨年十月に設定した天塩町げんきの森(更岸小学校林 約二千七百㎡)で、当センター職員指導のもと、同校児童全員が参加し森林教室が実施されました。

今年度「自分たちの森をつくる」を学習テーマにして、昨年、植樹したミズナラやツツジなどの生育状況の確認や湿潤地に植えた樹木の移植を行いました。また、混んでいるトドマツ林で除伐対象木の選定を行い、次回(八月下旬)の森林教室では下草刈り、除伐作業などの体験をする予定です。

なお、校内掲示板には「げんきの森」の地図(昨年の卒業生が制作)が展示されています。今後、この地図には森林学習の活動写真や、参加した児童の感想文を掲載していくそうです。

【写真左右は、植栽木の生育を観察している様子。写真下左は、掲示している「げんきの森」の地図

# 子どもたちの森林学習

当センターでは、地域の小学校が総合的な学習の時間などで取り組む「森林教室」に講師として出席し、森の仕組み、動植物の観察などの学習に協力しています。また、森林の重要性や森林環境などの興味、関心を図るため、児童センターなどが開催する、野外体験活動「森のクラフト制作」などの活動には、要請に応じて支援、協力を行っています。

● 増毛町立増毛小学校

平成二十年五月二三日(金)



増毛小三年生(二三名)は、今年度三回の森林学習を計画しています。第一回は校舎前庭にて、「自然図鑑をつくる」を目的に、植物、昆虫などの観察や自分で選定した樹木(葉)のスケッチを行いました。【写真上は、自分の選んだ樹木(葉)を観察しスケッチしている様子



## ○ ナナカマド〔バラ科〕

七竈 ライデンボク・ゴチノキ

安全・慎重・用心という意味の花言葉から交通安全の木として、北海道では街路樹としてよく植えられています。名前の由来は、七度かまどに入れて燃やしても、燃え残るといいます。名前の由来は、七度かまどに入れて燃やしても、燃え残るといいます。また、生木から炭を作るのに、七度焼かなければならないことから、生呼ばれています。由来よばられています。生呼ばれています。この植物は、北海道の初夏をかざる詩情豊かな郷土の花です。

【分布】北海道、本州、九州、中国、東シベリアなどに分布し、日当たりの良い丘陵地や山地の草原など。

七竈。バラ科ナナカマド属の落葉高木

別名：ライデンボク、ゴチノキ

各地の山地に自生し、樹高10~15m、直径30~40cm。

名前の由来：①七度かまどに入れて燃やしても、燃え残ることから。

②生木から炭を作るのに、七度焼かなければならないことから。

用途：材は耐久性が強く、車両材、精密機械木部、ハンマーや工具の柄、ろくろ細工、彫刻などに利用する。また、炭材としても極上で、火力が強くウナギの蒲焼き用に重宝される。

雷除けの木として、庭先に植える風習がある。秋の紅葉も美しく、赤く色づいた実は冬にまで及ぶ。北海道35箇所の市町村の木としても指定されている。花言葉(安全・慎重・用心)から交通安全の木として、街路樹として植えらる。